



〈精神科医〉
すずき ともひろ
鈴木 智広
つばさクリニック理事長・院長

2000年に秋田大学医学部を卒業後、佐久総合病院（長野県）、館林厚生病院（群馬県）、永生病院（東京都）などの勤務を経て、2012年につばさクリニックを開院。

オンライン診療は広まるか — そのメリットと課題

東京都下で訪問診療を中心に行っている精神科診療所がある。「つばさクリニック」である。COVID-19 拡大以前からオンライン診療も並行して実施してきた。現在、1,600 名を超える患者さんに対応するため、20 名以上の医師（非常勤含む）と 50 名近くのスタッフがフル稼働で診療に当たっている。「オンライン診療は利便性が高く、医師の時間節約にもなる」と語る院長の鈴木智広氏。スタッフの駒村健介氏、森田夏貴氏とともに話を聞いた。（編集部）

コロナ禍が起こる前から導入

鈴木：オンライン診療はこのたびの COVID-19 拡大に関係なく、2016 年から実施していました。それまで外来と訪問診療で対応していた患者さんの中から、対象となる方に声をかけてオンラインでの診療に移行していたのです。

駒村：私たちのクリニックには外来機能もありますが、訪問診療が全体の約 9 割を占める訪問型の精神科診療所です。訪問先の患者さんの多くはうつ病や統合失調症などで通院の難しい方です。

森田：私は「同行事務課」に所属しており、事務員として医師と 2 人で訪問診療に行っています。具体的には移動車の運転や訪問先で医師のサポートをしたり、訪問スケジュールの管理などを行っています。また地域連携室の相談員として、新患受



向かって左から
院長の鈴木智広氏、事務長の駒村健介氏、同行事務課課長の森田夏貴氏

入れ窓口業務等も行っています。

鈴木：訪問診療を中心にオンライン診療も行っているため、COVID-19 拡大による受診抑制などの影響は今のところ感じていません。

駒村：「コロナ禍」と言われる状況で、患者さんが「感染は怖いので通院したくない」と思われるのは当然ですから、これから全国的にオンライン診療や訪問診療の需要が高まるのではないのでしょうか。

新しいものにチャレンジして スピーディーに

森田：オンライン診療を採り入れたきっかけですが、オンライン診療の規制が緩和され始めた 2015 年頃、オンラインシステムの開発を手がける複数の企業から、導入を勧められる機会が増えたんです。

鈴木：システム自体は導入当時、選択肢はさほど多くはありませんでしたが、これからはさまざまな企業が参画し、種類も増えていくと思います。そうすればさらに安価で良質なシステムが市場に出てくるでしょう。今後、電子カルテとも連携し、バイタル結果の送信などもできるようになればいいですね。

駒村：当院の院長は新しい技術を採り入れることが大好きで、常に最先端のものにチャレンジしたい性格なんです（笑）。

鈴木：新しいものには興味を惹かれますね。時

代は変わっていきますから、常に一歩先を意識したいのです。私は特に IT に詳しいわけではありませんし、もともとはアナログな人間なのですが（笑）。

森田：当院は電子カルテの導入も早かったですし、操作が複雑で使いにくいものから、簡易なものにどんどん変えていきました。現在は薬局に送る処方箋もパソコンから直接ファックスできる仕組みになっています。診察後にすぐ薬局へファックスできますので、患者さんはいち早く薬を受け取ることができる。院長も私たちスタッフも常に「いかにスピーディーに対応できるか」を意識しています。

駒村：基本的にすべての業務においてタブレットかパソコン、スマートフォンしか使いません。手書きより圧倒的に早いので、紙の書類はなくても業務に支障がない状態にしています。たとえば当院で独自に開発したシステムでは、タブレットに訪問診療の予定を入力すると、そのカレンダーは地図ソフトに紐づけられていますので、次の患者宅まで最短ルートが地図に表示され、ナビができます。

鈴木：生産性と効率性を考えた結果ですが、当院の IT 化はかなり進んでいると思います。

とにかく「便利」

森田：正直、オンライン診療の導入にあたって最初はそんなに期待していなかったんです。でも患者さんの興味を引くきっかけになるかもしれない、とりあえずやってみようと思っていました。

鈴木：実際に導入してみると、とにかく患者さんから「（オンライン診療は）便利だ」と言われるようになりました。わざわざ診療所に来ることなく自宅で診察が受けられますから、患者さんの負担をだいぶ減らせたのではないかと思います。

森田：これまで患者さんやご家族から「オンライン診療をして欲しい」との問い合わせが数十件ありました。しかし向精神薬の処方制限や、出せる薬も処方上限が 1 週間分などの規制があり、対象から外れてしまったケースも少なくありません。患者さんやご家族に「残念ながら対象外です」と



院長の鈴木氏はオンライン診療にスマートフォンを使用。



院長の鈴木氏から見た患者さんの画像
（撮影協力：駒村氏）

オンライン診療を受ける患者さんから見た画像

お伝えすると「感染が不安で外出したくないから（受診は）あきらめます」と言われてしまう。非常事態でもありますし、何とかならないものかと思っています。

スタッフ募集にもよい影響が

鈴木：スタッフ不足に悩んでいる医療機関は多いと思いますが、オンライン診療を始めてから求人応募も増えたんですよ。

森田：IT やベンチャービジネスに興味のある若い方の応募が増えました。「オンライン診療を採り入れている最先端のクリニック」と思ってもらえたのではないのでしょうか。いい PR にもなったと思います。実際、応募者のほぼ全員が聞いてくるんですよ。「オンライン診療をやっているらっしゃるんですか」って。それから志望動機にも書いている人